

第 2 回 JR古賀駅周辺開発推進協議会 議事要旨

日 時	令和 6 年 3 月 1 日 (金) 14 時 00 分～16 時 00 分		
場 所	リーパスプラザこが 2 階 歴史資料館中会議室		
出席者 (敬称略)	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授	柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授	星野 裕司
		古賀市商工会 会長	藤井 博文
		ニビシ醤油株式会社 営業部 本部長	玉谷 武志
		古賀市行政区 古賀北区長	森田 清彦
		古賀市行政区 古賀南区長	馬場 實
		福岡県公立古賀竟成館高等学校 教頭	米原 光章
		福岡女学院看護大学 事務部長	武井 秀仁
		花鶴タクシー有限会社 代表取締役	保井 亨
		株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典
		西日本鉄道株式会社 自動車事業本部 営業部 営業第二担当課長	中島 将吉
		九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 経営企画部 鉄道・開発・モビリティサービス推進室 担当課長	高木 圭一郎
		福岡県粕屋警察署 交通第一課長	下川 陽一
		(代理)独立行政法人 都市再生機構 九州支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 まちづくり支援課 課長	三戸 勇二
		事務局	建設産業部古賀駅周辺開発推進課
オブザーバー	株式会社都市環境研究所	村瀬 大作	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 次第 ・資料2 第1回JR古賀駅周辺開発推進協議会議事要旨 ・資料3 古賀駅西口エリア社会実験の報告 ・資料4 自動車交通調査の結果概要 ・資料5 歩行者行動調査の結果概要 ・資料6 JR古賀駅西口周辺整備基本方針(案)について ・資料7 JR古賀駅東口周辺道路の整備方針について ・参考資料 居心地が良く、使われる公共空間をつくるために (Ver2.0) 		

<議事要旨>

1. 開会

2. 説明および意見交換

(1) 第1回JR古賀駅周辺開発推進協議会議事要旨の確認

第1回JR古賀駅周辺開発推進協議会議事要旨の確認について説明(事務局)

(2) 古賀駅西口エリア社会実験の報告

古賀駅西口エリア社会実験の報告について説明(事務局)

【意見交換】

(柴田会長)

商店街の反応はどうだったか。

(事務局)

イベントには20店舗以上参加いただき、ヒアリングの中でも非常に好評で、今後もこのようなイベントをやってほしいという意見が多かった。

(委員)

人気の店舗には行列ができてなかなか入れなかった。次回イベントを実施する際に検討してもらいたい。

(柴田会長)

人気が集中する店舗とそうでない店舗とで、商店街側への刺激にもなり、イベントが続いていくと良い。

(3) 自動車交通調査の結果概要

自動車交通調査の結果概要について説明(事務局)

【意見交換】

(星野副会長)

大きな不便などはなかったか。

(事務局)

交通社会実験の期間中に住民の皆様にご意見をいただき、特に多かった意見が2点あった。まず1点目は古賀停車場線から国道495号線に抜ける時の交通量が増えてしまうため一時的に渋滞のような状態が続いたこと(資料3のP2の写真参照)。2点目は、商店街の中の細い道を抜け道として通る車があったこと(資料4のP3の図参照)。

(4) 歩行者行動調査の結果概要

歩行者行動調査の結果概要について説明(事務局)

【意見交換】

(委員)

歩行者行動調査はどのように調査されているのか。

(オブザーバー)

調査員の札を付けた者が、例えば駅から出てきた方がどちらに歩いていくのか、どのような行動をとっているのか後ろからついて行き、地図に線を引いたり行動をチェックしたり、それを積み重ねてデータを取っている。

(星野副会長)

古賀停車場線の渋滞は、憩いの広場から停車場線を渡る歩行者の増加に関係性はあるのか。

滞留行動調査では、サンリブのイベントで集まっているところ以外で、印が多いところは参加された店舗のところか。それとも想定していないところに人が集まっていたのか。

(オブザーバー)

交通社会実験と歩行者の増加の関係性についてはデータや数値などで証明はできないが、アンケート調査では8割の方が歩行者に優しい取り組みを進めてほしいという結果だった。

(事務局)

人が集まっているところは、イベントに参加された店舗に集中している。またチケット売り場から少し離れた参加店舗にもしっかり回遊していたため、店舗やオープンスペース含めてデータと参加された店舗が合致している状況。

(委員)

商工会の前などは塾の送迎をされる方が多く、社会実験期間中はより渋滞の原因になったのではと思う。

(5) プレスメイキングの考え方について

プレスメイキングの考え方について説明((独)都市再生機構)

(6) JR古賀駅西口周辺整備基本方針(案)について

JR古賀駅西口周辺整備基本方針(案)について説明(事務局)

【意見交換】

(委員)

赤間駅前の開発では駅や広場の拡張がされ、店舗が減り、駐車場が増えたことで衰退しているため、その点を西口は注意してもらいたい。

(事務局)

サンリブは今回の社会実験で駐車場を利用しアーバンスポーツの体験会を実施したが、その話し合いの中で、しっかりまちと連携しながらやっていきたいという意向もいただいた。また近々全面的なリニューアルを計画されるという話も伺っているためそういった面でも引き続き連携していきたい。

今回の社会実験の結果を踏まえ、駅前に人通りがなくなってしまうような計画にはならないようにしっかり考えていきたい。また西口では民間団体も含め新規の出店も増えてきているため、継続的にしっかり考えていきたい。

(委員)

社会実験の結果から、サンリブを中心に人の流れができていていると感じた。サンリブから離れた商店街はどうしても人通りが少なくなるためそこをどうするかが重要。大きな企業を呼ぶことが商店街にとって良いことか分からないが、メインの企業がいなくてうまくいかないのではと感じた。

市民の方に情報共有していかないと賛同は得られないと思う。

(柴田会長)

一昨年に実施した市民ワークショップのような情報共有できる場があると良いかもしれない。

また、サンリブがリニューアルされるとのことで、牽引する大きな企業がいるということは地域にとっても重要だと思う。ただ懸念するのは市外の会社の場合でそこばかりにお金落ちてしまうこと。商店街といかに共存・連携していけるかが活性化に重要なこと。

(委員)

駅にはエスカレーターが設置されるのか。

(事務局)

エスカレーターについては西口・東口どちらも設置する方向で考えている。

(星野副会長)

資料6について最終的に計画書の中でどんなところに東口との一体化について書くのか、どう表現していくのか考えを聞きたい。

(事務局)

西口は面的にマネジメントしていく過程で、民間団体の活動もしっかり調整しながら進めていき、東口の開発が進んでいく中でそういった活動も流れてくるようなところを想定している。また、東口のコンセプトは「歩きたくなる暮らしたくなる居心地の良いまちづくり」としているが、こちらもウォークアブルという観点では西口も東口も合わせて回遊性と滞留性をもたせていくような考え方をとっているためそういった整合を取っていきたいと考えている。

(オブザーバー)

今回西口のコンセプトを『「めぐる」をつくる』としているが、そのコンセプトが東口にも展開していけると良

い。東と西をうまく融合し良い効果が生まれるように考えていきたい。

(委員)

東と西の中間に立つのが古賀駅であるが、どのような形で融合していくのか。ただエスカレーターを付けるだけではなく、今後古賀駅がどのように変わっていくのか非常に重要なポイント。

(委員)

自転車で行き来できればさらに西口に人が流れ、西口に出店したいというニーズにも答えられるのでは。東と西を繋ぐ手段に自転車も考えてほしい。

(柴田会長)

自転車で行き来できれば行動範囲も広がるなと感じた。

東口のプレスメイキングとしてもどこの点から作るのか、効果的などを探らないといけない。駅の西口を出て、憩いの広場辺りまでのこの点が東と西を繋ぐうえで非常に重要で、そのような話の流れで計画案を進めていけると良い。

(事務局)

古賀駅の話もあったが、JRとはこれまで検討を進めていく中で、情報共有をさせてもらっている。今後も継続して協議を進めていきたいと思う。

自転車についてはエレベーターを設置する際に自転車が入るようなサイズを考えるなど今後の検討に生かしていきたい。

(7)JR古賀駅東口周辺道路の整備方針について

JR古賀駅東口周辺道路の整備方針について説明(事務局)

3. その他

(事務局)

第3回の協議会を5月頃に実施させていただき、JR古賀駅西口周辺整備基本方針(案)の最終案を示させていただきたいと考えている。そのうえで概ね7月頃に公表し、市民の皆様にもしっかり説明の機会を設けたいと考えている。

4. 閉会

以上